

消費税の消費への影響（駆け込み需要と反動減）について

平成25年10月
戦略企画部統計課

消費税の消費への影響について、平成元年の消費税導入時と平成9年の税率引き上げ時における駆け込み需要と反動減について分析を行いました。

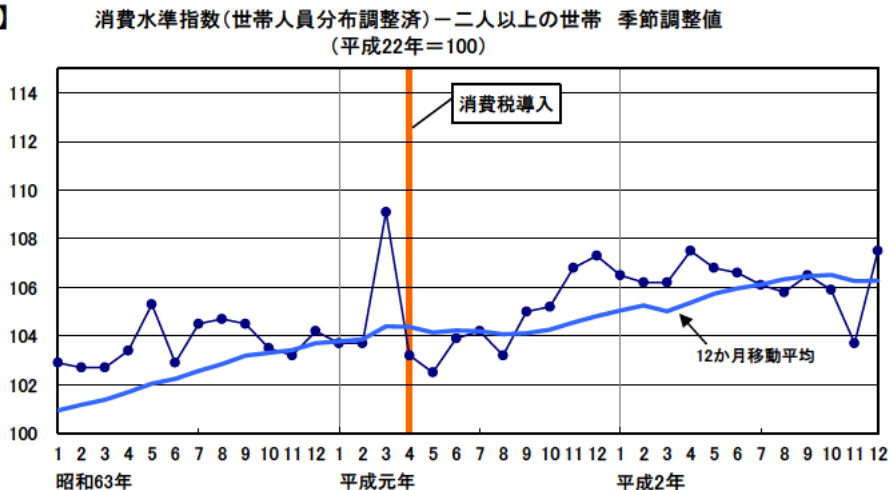
なお、これまでの消費税導入、税率引き上げは、直間比率の見直しの側面が大きく、個人所得税や法人税の減税が同時実施されており、トータルでは増税とはなっていないため、一時的な駆け込み需要、反動減があったとしても、景気への影響は理論上小さいと考えられます。今回の消費税率引き上げは、減税があったとしても、トータルで実質的な増税となります。

1 家計消費の動き（全国）

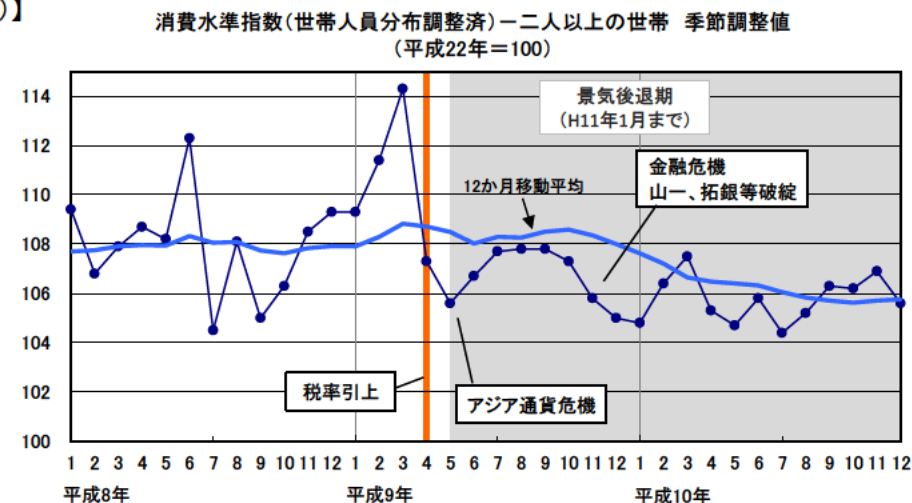
消費税導入時及び平成9年引き上げ時における総合的な家計消費の動向について、消費水準指数の月別の推移を見ると以下のグラフのとおりとなっています。

※消費水準指数：消費支出から世帯規模（人員）、1か月の日数及び物価水準の変動の影響を取り除いて計算した指数で、家計消費の面から世帯の生活水準をよりの確に把握することができる。

【消費税導入時（平成元年）】



【税率引き上げ時（平成9年）】

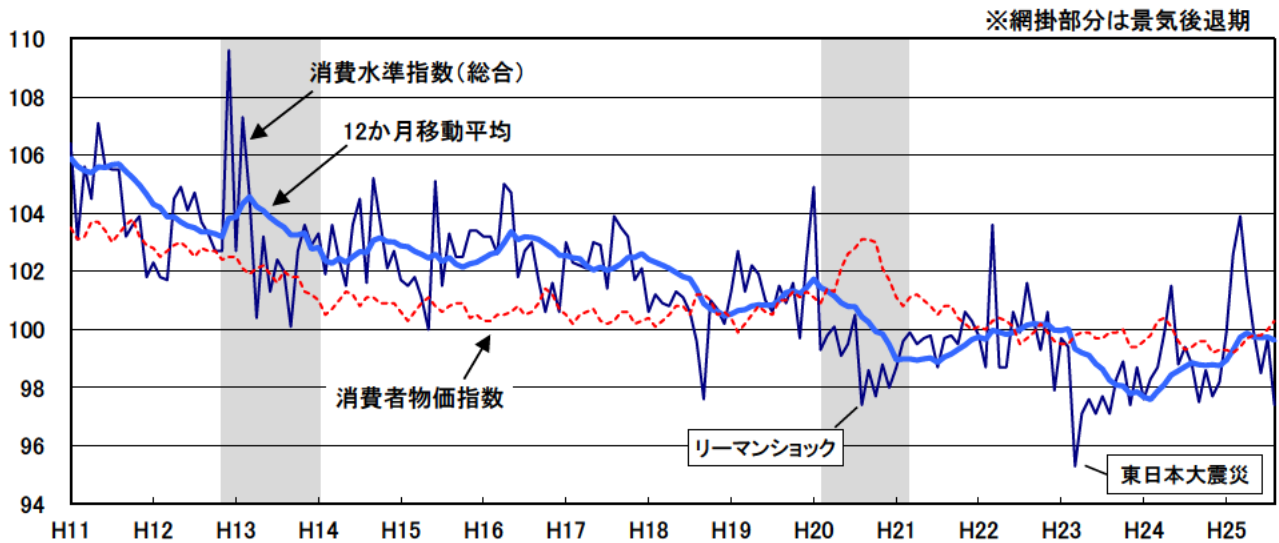


- ◆ 12か月移動平均からの乖離で見ると、駆け込み需要は、導入時は3月の1か月のみ、引き上げ時は4か月前の12月から動きが始まり、2か月前の2月から顕著となっている。
- ◆ 反動減については、導入時は4月、5月の2か月間、引き上げ時は6月までの3か月間見られる。

平成11年以降の消費水準指数と消費者物価指数の推移は次のグラフのとおりとなっており、家計消費、消費者物価ともに低下を続けてきたことがわかります。

なお、12か月移動平均を見ると、家計消費は平成24年2月(97.6)を底に上昇に転じており、9月～12月に頭打ちとなりかけたところ、アベノミクス効果で一段の上昇となっています。

平成11年以降の消費水準指数(季節調整値)及び消費者物価指数の推移(平成22年基準)

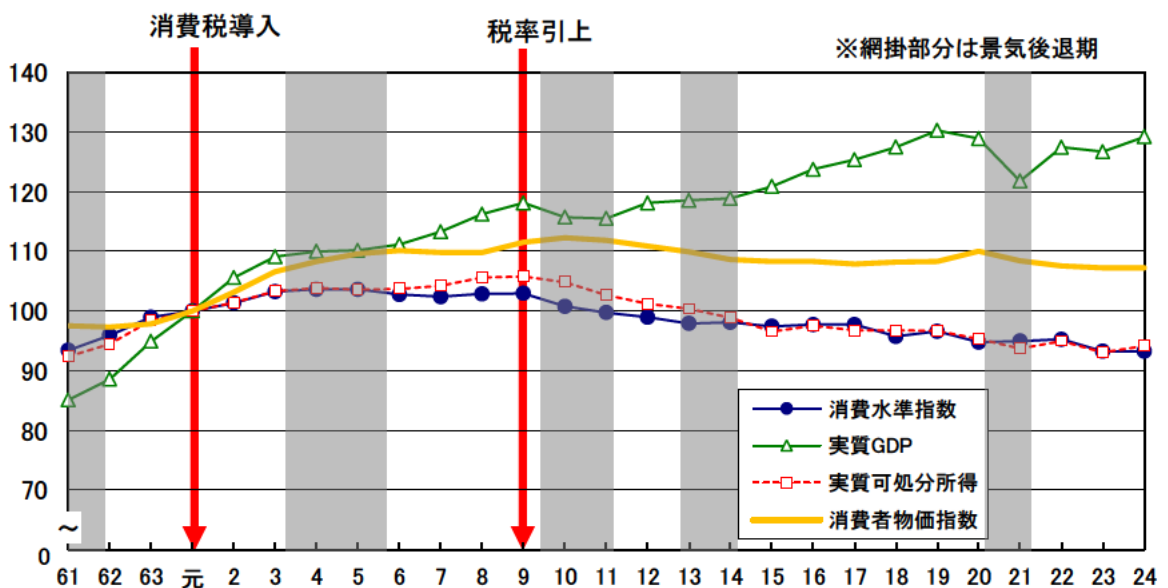


2 昭和 61 年以降の消費関連指標の推移

昭和61年以降、消費税の導入、税率引き上げを経過した消費関連指標の推移は次のグラフのとおりであり、消費水準は消費税の影響は見られず、実質可処分所得と連動性が強いことがわかります。

特に平成12年以降は実質GDPの上昇が可処分所得の上昇につながっておらず、消費水準及び消費者物価指数の下落傾向が続いてきた要因になっていると考えられます。

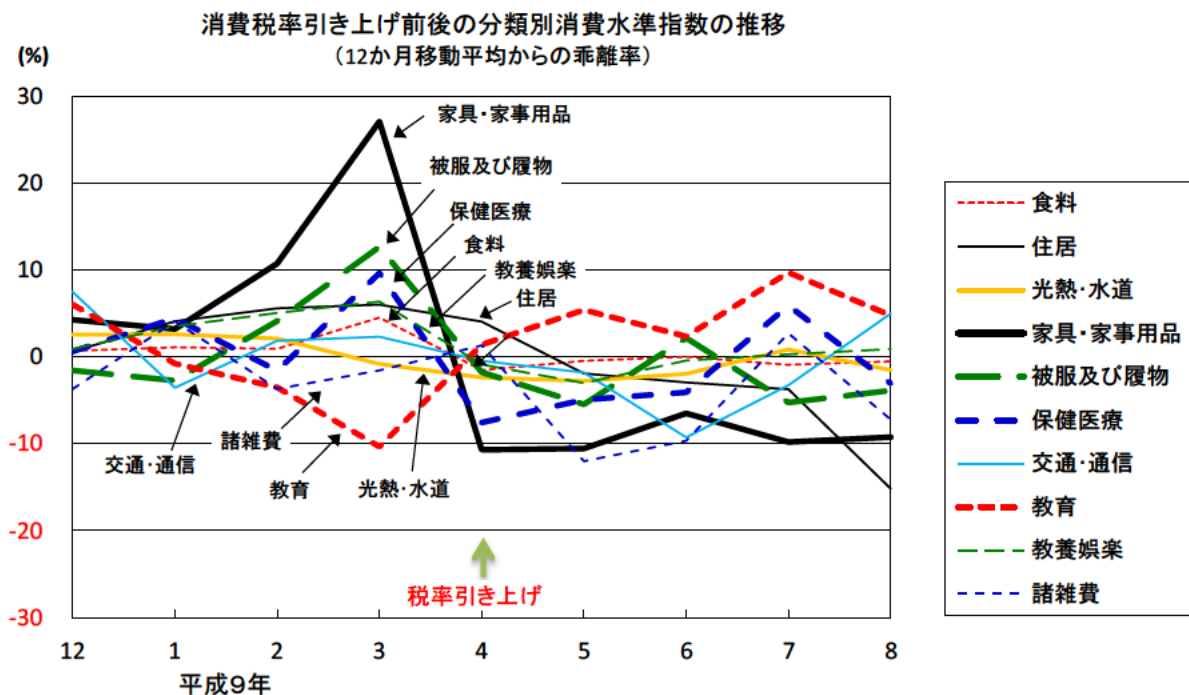
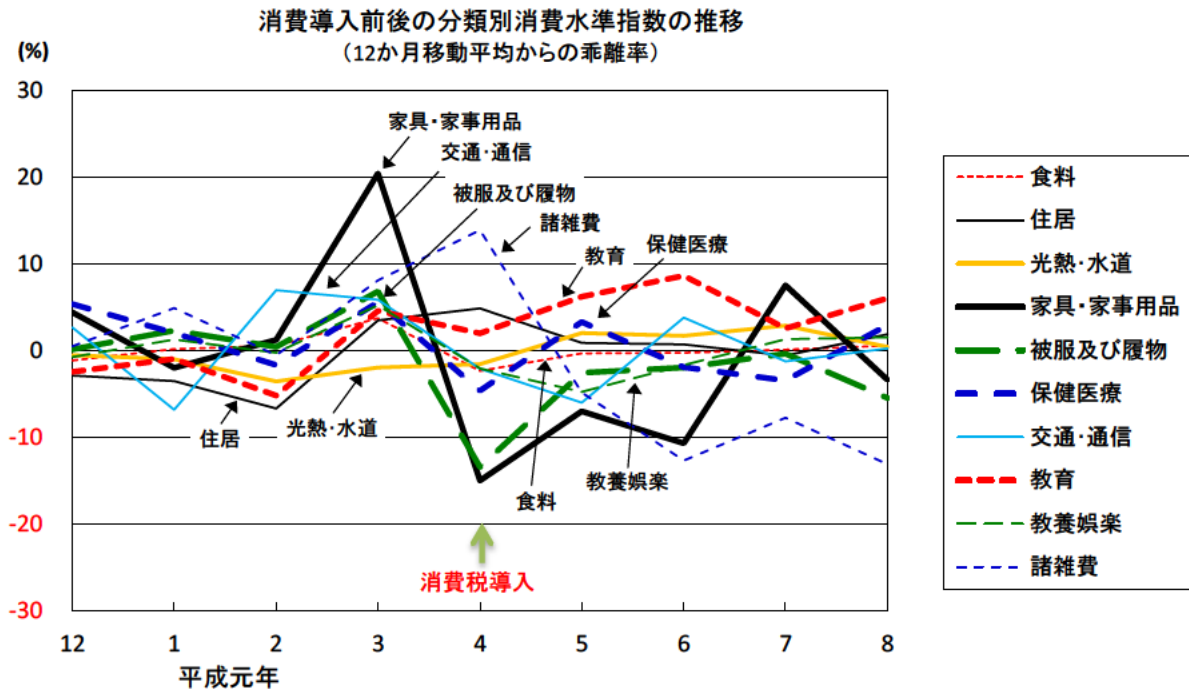
消費水準指数(二人以上の世帯)・実質GDP・可処分所得の推移
(平成元年=100として置き換えた指数)



※実質可処分所得は、家計調査の可処分所得を平成22年基準消費者物価指数(帰属家賃を除く総合)を用いて実質化したもの。

3 費目別に見た家計消費の動き（全国）

消費税導入時及び平成9年引き上げ時における費目別の家計消費の動向について、消費水準指数の12か月移動平均からの乖離率の月別推移を見たのが次のグラフです。

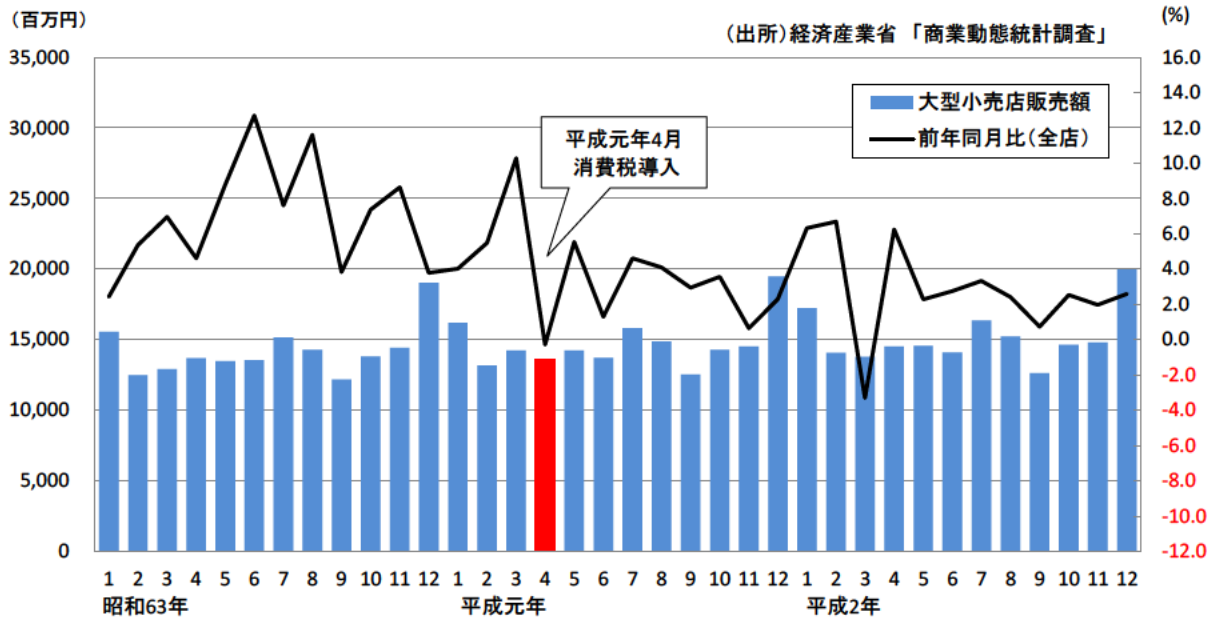


- ◆ 最も駆け込み需要が大きいのは「家具・家事用品」で、直前月は20%以上高い水準となっており、引き上げ時は2か月前にも10%以上高い水準となっている。反動減も大きいですが、導入時はバブル景気の最中であり、3か月後には回復している。
- ◆ 「被服及び履物」、「保健医療」、「教養娯楽」、「食料」、「住居」、「交通通信」にも駆け込み需要が見られるが、反動減は「被服及び履物」以外はそれほど大きくない。
- ◆ 「住居(家賃、修繕等で住宅取得は含まない。）」「光熱・水道」、「教育」、「諸雑費」は駆け込み需要は見られない。

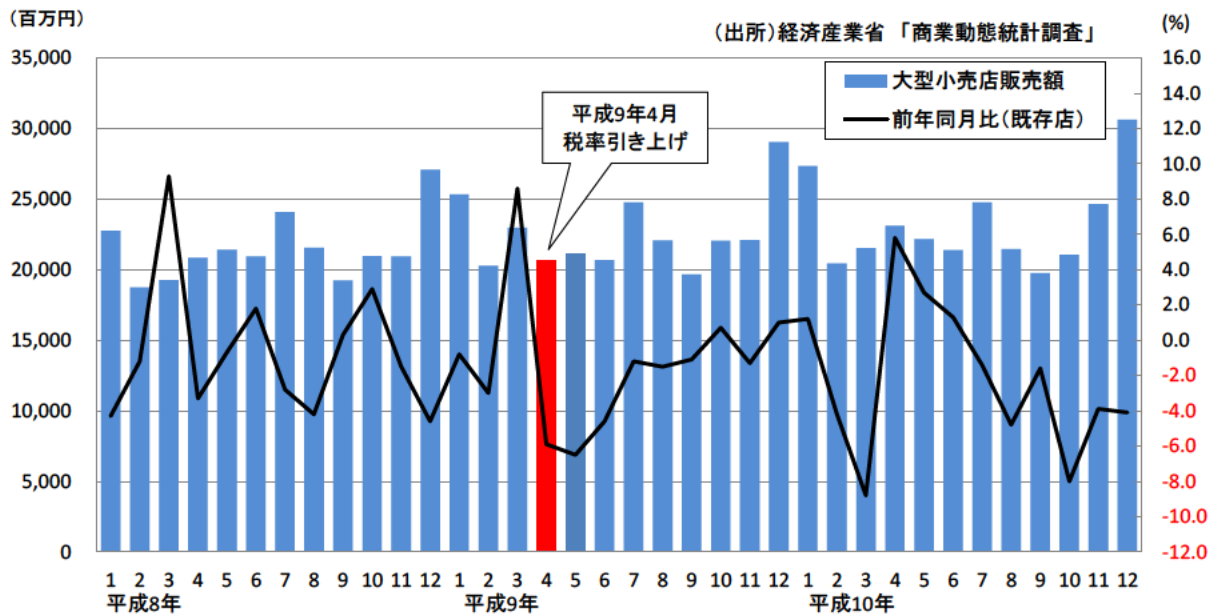
4 大型小売店販売額の動き（三重県）

消費税導入時及び平成9年引き上げ時における三重県の大型小売店販売額の動向について見たのが次のグラフです。

消費税導入時における大型小売店販売額(全店)の推移



消費税率引き上げ時における大型小売店販売額(全店)の推移

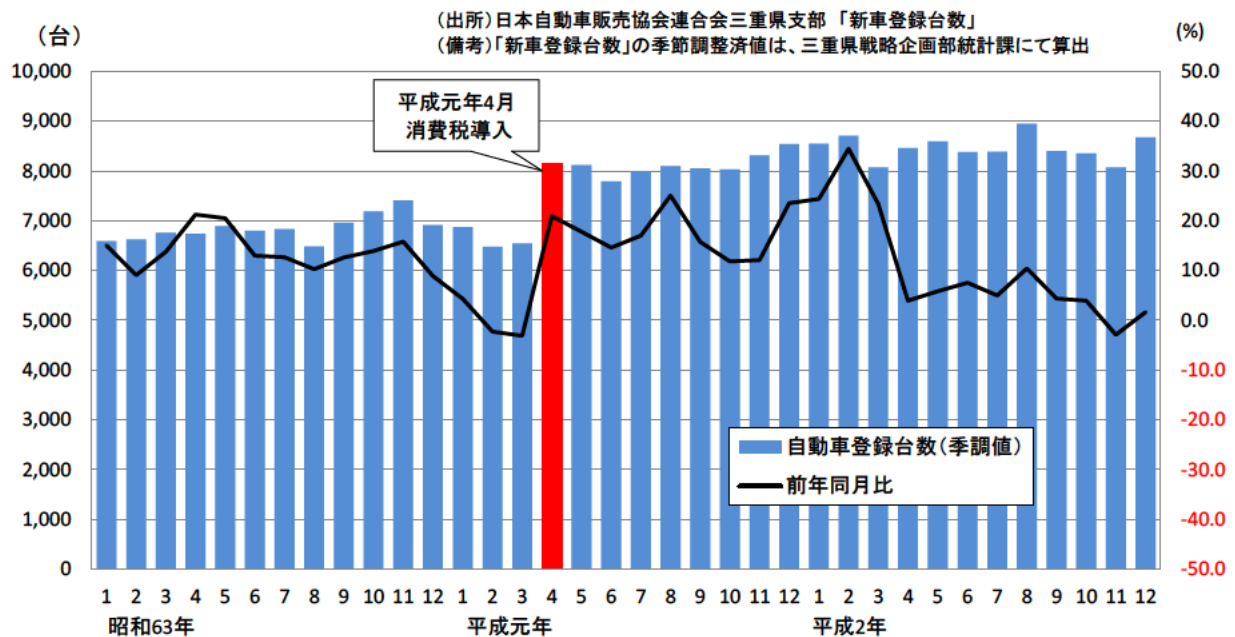


- ◆ 販売額を前年同月比で見ると、導入時、引き上げ時とも1か月前に駆け込み需要が見られるが、それ以前は顕著ではない。
- ◆ 導入時はバブル景気であり反動減は4月の1か月のみで5月には回復したが、引き上げ時は反動減が4月～6月の3か月間続いた。

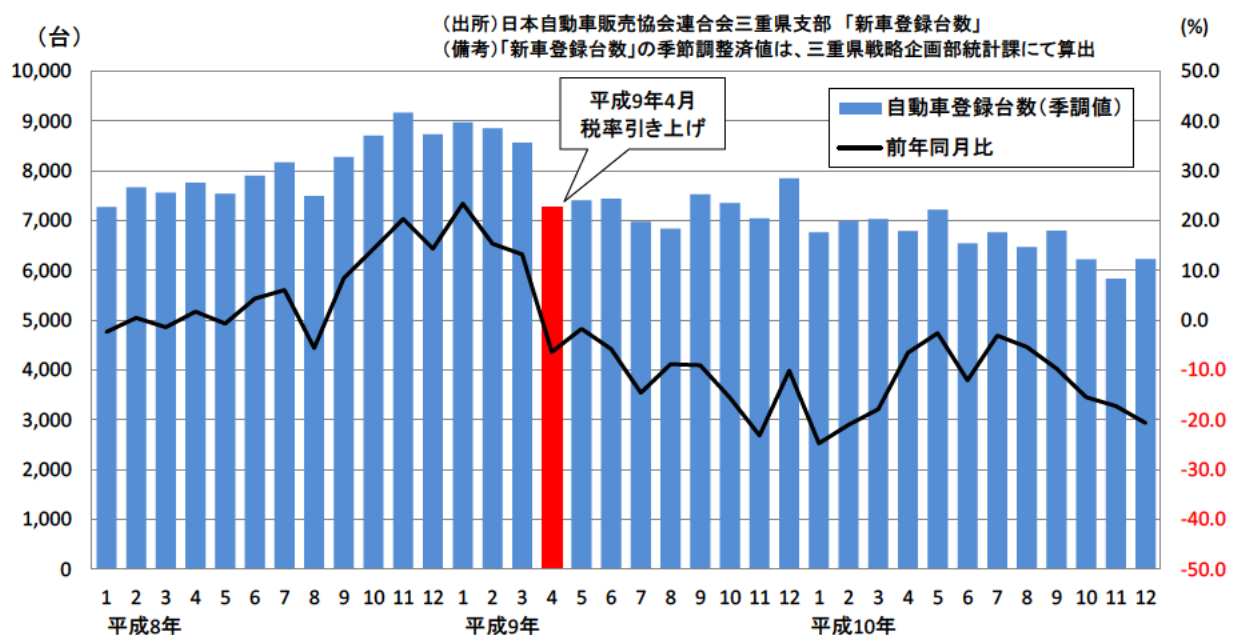
5 自動車登録台数の動き（三重県）

消費税導入時及び平成9年引き上げ時における三重県の自動車登録台数(季調値)の動向について見たのが次のグラフです。

消費税導入時における自動車登録台数(三重県、季調値)の推移



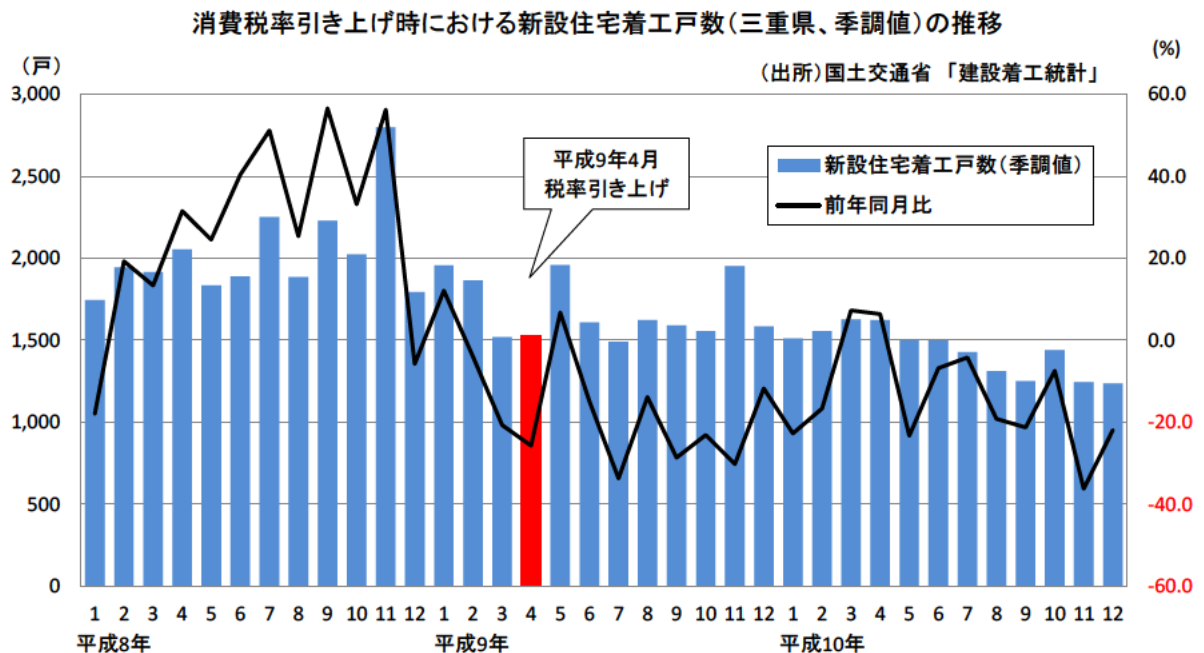
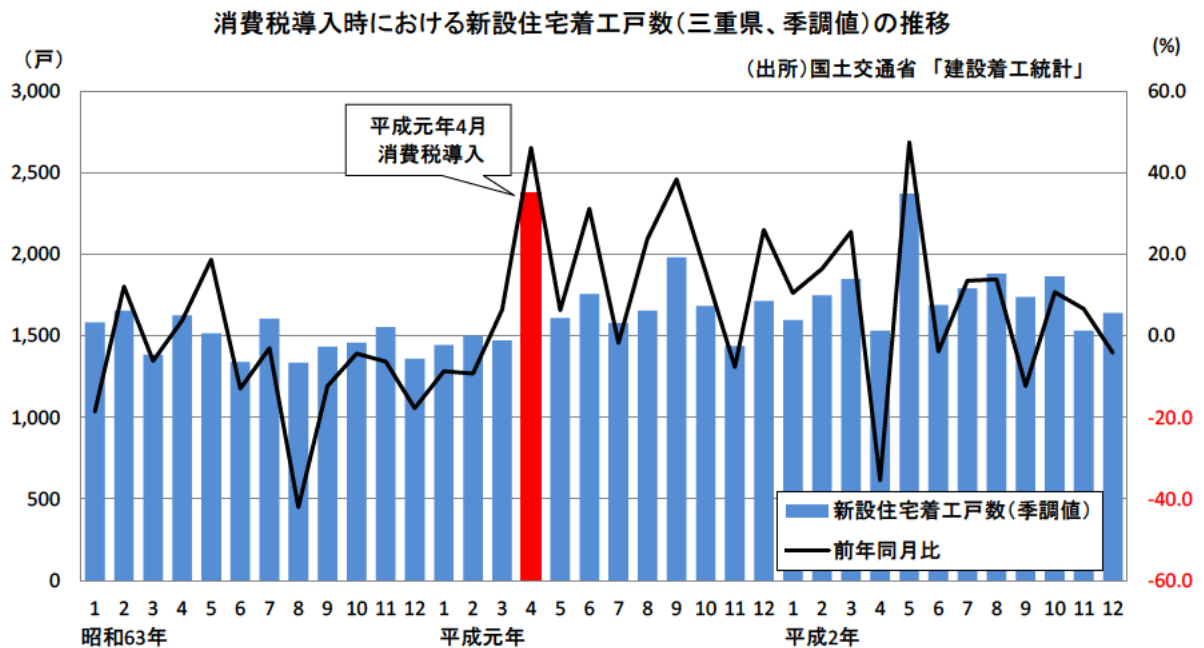
消費税率引き上げ時における自動車登録台数(三重県、季調値)の推移



- ◆ 導入時は同時に物品税の廃止があり、自動車購入は導入後の方が有利となったため、4か月程前から買い控えが見られた。消費税導入(物品税廃止)後はバブル崩壊まで登録台数の増加が続いている。
 - ◆ 引き上げ時は6か月前の前年9月から駆け込み需要が始まっており、引き上げ後は反動減に金融危機等の影響も重なり、低迷が長引くこととなった。
- ※今回は取得税の減額があるため、自動車については前回ほどの駆け込み需要は見られないと考えられる。

6 新設住宅着工戸数の動き（三重県）

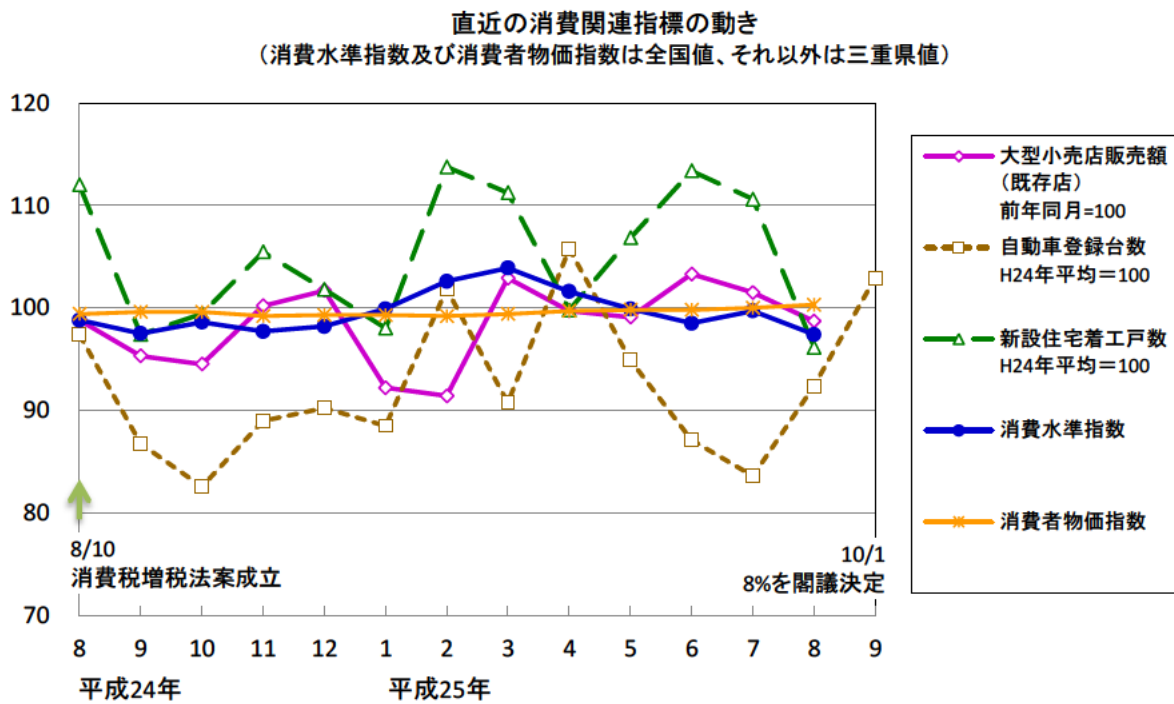
消費税導入時及び平成9年引き上げ時における三重県の新設住宅着工戸数(季調値)の動向について見たのが次のグラフです。



- ◆ 導入時は法案成立から導入までの期間が短かったこと、それまでもバブル景気で着工戸数が多くなっていたことから、消費税導入前の1年間の駆け込み需要は見られない。
 - ◆ 引き上げ時は約1年前から駆け込み需要が発生しており、反動減は契約日の関係から引き上げ日の数か月前から始まり約1年後まで続いた。
- ※今回は住宅ローン減税拡充や「すまい給付金」の措置が取られるため、駆け込み需要や反動減は軽微にとどまると考えられる。

7 直近の消費関連指標の動き

平成26年4月の消費税率引き上げに向けて、直近の消費関連指標の動きを見たのが次のグラフです。



- ◆ 新規住宅着工戸数は、平成25年は24年平均を上回っている月が多いが、平成20年のリーマンショックからの回復過程にあるため、今のところ、駆け込み需要が起きているかどうかの判断は難しい。
- ◆ その他の指標も上昇を続けている状態ではなく、まだ駆け込み需要は起きていないと考えられる。